

ボードウォーク建設をきっかけにゴミ減少 ～ゴミの集合地からはまぼう樹林を眺める散歩道へ～

ハマボウを活用した ボードウォーク建設

ボードウォーク造成のきっかけは、当時、大賀茂川周辺にゴミの投棄や流木があり問題となっていたことと、静岡県が施行する大賀茂河川改修事業の区域に市指定の天然記念物はまぼう樹林が含まれていたことから、平成 5 年に吉佐美区からはまぼう樹林の保護と活用の要望が、下田市へと提出されました。

その要望の中で、はまぼう樹林に影響が生じないよう最小限の施工方法を実施してほしい旨と、はまぼう樹林が将来に渡って植生するための環境整備として、樹林を活かした散策路整備の提案がありました。その後、大賀茂川の管理者である静岡県と協議し、静岡県でボードウォークを建設していただき、後に下田市へと移管する形となり現在に至ります。



建設前



建設後



建設前



建設後



部分的補修工事から管理を考える

下田市ではボードウォークを定期的に補修しています。完成してから約 18 年経っているため、毎年多くの箇所では、板の補修や改修が必要となっております。市では、今後限られた予算と相談しながら、どのように管理するかを考える時期にきています。



腐食したデッキ材を取り外し、新しい木材で補修工事。

清掃活動の輪で環境保全

毎年、朝日地区に住む小中高生の生徒とその保護者などで清掃活動を実施しています。昨年は、12 月上旬に地域の住民の方と共同で行いました。この活動によりボードウォークが地域の方たちに大切に利用されています。今年も 12 月上旬頃に実施する予定とのことです。



ボードウォークの周辺などにあるゴミを拾う清掃活動の様子。

みんなの一步 ～下田まち遺産を守る～

竹灯籠で祭りを飾る。



参道を照らす竹灯籠



一つ一つの竹灯籠に光りが灯る



竹の切り出し作業をする保存会メンバー



約 500 もの竹灯籠を製作

地域みんなで結成した 保存会メンバーで竹灯籠を作製

今年、加増野の報本寺の山随権現祭(8 月 10、11 日に実施)の夜祭にて約 500 個の竹灯籠が、境内までの参道をあたたかな光で照らしました。この活動は、加増野の「山随権現祭保存会」の方が主になり地域住民の方と一緒に実施したものです。「山随権現祭保存会」は、今まで若者が中心になって実施していた祭りを、若者だけでなく地域の方々みんなで協力して実施することで、今後も継続していくことを目的に、昨年度組織を立ち上げました。

今回の竹灯籠は、保存会としては初めての活動。竹灯籠の企画は、「山随権現祭保存会」の発案で 8 月 10 日の夜のイベントとして初めて実施したものです。竹灯籠の作製は、加増野の住民の方にボランティアを呼びかけて、7 月 17、24 日の 2 日間で延べ約 65 名の方が集まり、切り出した竹を加工して作成しました。



下田まち遺産 報本寺山随権現祭祭礼幡廻し

山随権現は、土肥の豪族・富永政重と言われています(諸説あり)。戦国時代から江戸時代にかけて加増野に流れ込んだ浪人による略奪等が横行したため、富永氏を中心に浪人を撃退したといわれています。この富永氏の遺徳を偲び、幡廻しが始まりました。